童謡の里安芸

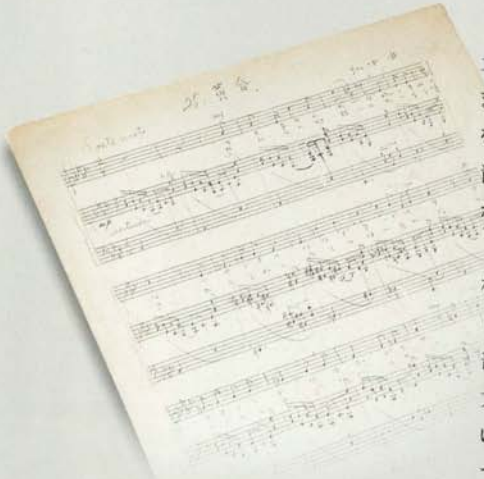
いつまでも心に残る
あの日の童謡（うた）

弘田龍太郎

弘田龍太郎プロフィール
（1892～1952）

38歳頃の龍太郎

大正・昭和期の作曲家


龍太郎直筆の楽譜

弘田龍太郎は、明治25年（1892年）6月30日安芸郡土居村西木戸（現在の安芸市土居）に長男として生まれました。父は教育者であり、明治初期に高知県議会議長を務めた弘田正郎。母・総野（房野）は、一絃琴の名手で、龍太郎の音楽的才能はこの母から受け継いだものといわれています。

3歳のころ、父の転任に従い安芸を離れ、千葉師範学校付属小学校、三重県立第一中学校を卒業。明治43年（1910年）、東京音楽学校（現在の東京芸術大学）器楽部ピアノ科に入学しました。在学中に歌曲「昼」を作曲。大正3年（1914年）卒業、11月には詩人・高安月郊の長女、ゆり子と結婚しました。卒業と同時に母校の助手を勤めますが、大正6年（1917年）、作曲部の新設にあわせて再入学し、その後、講師を経て、助教授となりました。

本格的な作曲活動は、大正6年（1917年）頃から始まります。宮城道雄を中心とした『新日本音楽運動』に参加、琴や三味線を主体としてきた当時の日本舞踊界において、洋風の伴奏を取り入れるなどの斬新な活動が脚光を浴びました。また、舞踊家の若柳吉三郎（初代）に「柳」「姥捨山」「雪の幻想」や歌舞伎の尾上菊五郎（六代目）に「生贄」「刺客」を作曲、振り付けまでも指導し、大好評を博しました。その後、北原白秋を中心とした童謡運動『赤い鳥運動』に参加し、島崎藤村の連作「小諸なる古城のほとり」「千曲川旅情のうた」、童謡「浜千鳥」「雀の学校」「春よ来い」などの名曲を次々と発表し、童謡・歌曲作家としての地位を確立しました。昭和3年（1928年）、文部省在外研究員としてドイツに留学し、ベルリン大学で作曲とピアノを研究しました。帰国後、母校の教授に任ぜられましたが、2ヶ月で辞任し、作曲活動に専念、仏教音楽「仏陀三部作」やオペラ「西浦の神」などを発表し、高く評価されました。

晩年は、作曲活動のかたわら、幼児教育に携わり、放送講習会やリズム遊びの指導にあたりました。昭和27年（1952年）11月17日、東京本郷弥生町の自宅で永眠、時に60歳。

龍太郎の碑
（三重県立津高等学校）

童謡の里づくり

秀麗な四国山地にいだかれ、南に雄大な太平洋を望み、安芸川・伊尾木川の二大河川が流れる安芸市は、豊かな自然に恵まれた、のどかな田園都市です。この豊かな自然は、岩崎弥太郎、黒岩涙香など数多くの偉人を輩出しました。なかでも大正・昭和期の代表的な作曲家である弘田龍太郎のふる里として、数々の童謡を生み出す背景となった歴史と文化の香る街です。

安芸市は、弘田龍太郎の偉業を後世に受け継ごうと、童謡に特化したまちづくりを進めています。童謡の里づくり運動は昭和52年に、当時の安芸市観光協会会長が、「弘田龍太郎が残してくれた、童謡という何年たっても滅びない遺産をみんなで大切にするために碑を建てよう」と呼びかけたことに始まります。この呼びかけは、安芸市を訪れた人が、安芸市自慢の風物に触れられるように、弘田龍太郎の童謡曲碑を安芸市内各所に建立する活動に発展し、この運動に高知安芸ライオンズクラブが呼応して、ほとんどの曲碑建立に資金と労力を提供し、昭和53年6月に最初の曲碑「浜千鳥」が大山岬に完成したのをはじめ、安芸市内の名所・旧跡に10基が建立されました。

また曲碑建立活動と同時に、市民の合唱やゲストコンサートなどを行う『安芸童謡フェスティバル』や、新しい童謡の創作を目指す『弘田龍太郎ふるさと賞』の創設、『童謡のシンボルマーク』の制定、兵庫県龍野市（現在　たつの市）との童謡で結ぶ姉妹都市提携など、様々な活動を行ってきました。

現在も市民団体による活発な童謡の里づくり活動が行われています。

姉妹都市「たつの市」

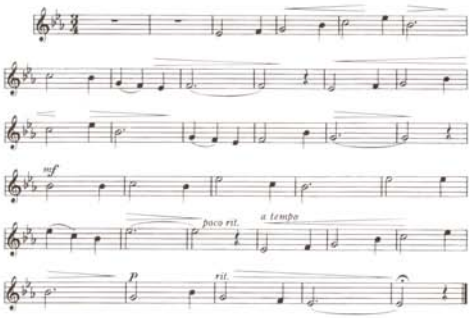
安芸市では、童謡の里づくり活動が縁で、童謡「赤とんぼ」を作詞した、三木露風の出身地、兵庫県龍野市（現在　たつの市）と全国でもユニークな、童謡で結ぶ「姉妹都市」を平成元年4月26日に締結しました。

現在両市は市民団体などの交流を活発に行っています。

兵庫県龍野市
（現在 たつの市）との
姉妹都市提携調印書

※音声ガイド設置

- 第1号曲碑
- 昭和53年6月建立
- 大山岬の新旧国道分岐点



1歳頃の龍太郎

浜千鳥

作詞 鹿島鳴秋
作曲 弘田龍太郎

青い月夜の　浜辺には
親をさがして　鳴く鳥が
波の国から　生まれ出る
ぬれた翼の　銀のいろ

夜鳴く鳥の　かなしさは
親をたずねて　海こえて
月夜の国へ　消えてゆく
銀の翼の　浜千鳥

（大正九年一月作曲）

- 第2号曲碑
- 昭和55年4月
- 内原野公園入口

千葉県立師範学校
付属小学校1年生の頃
父正郎と

咲いた桜に

作詞　不詳
採譜　弘田龍太郎

咲いた桜に
何故　駒つなぐ
駒が勇めば　花がちる

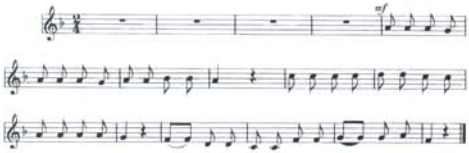
何をくよくよ　川端柳
水の流れを
みてくらす

（昭和十二年八月二日採譜）

●第3号曲碑

●昭和56年6月

●黒鳥浄貞寺山門前



津中学校時代
左から3番目が龍太郎

お山のお猿

作詞 鹿島鳴秋
作曲 弘田龍太郎

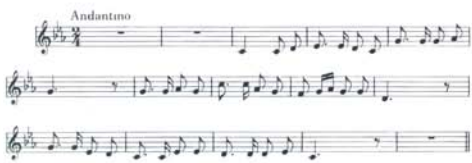
お山のお猿は
鞠が好き
とんとん鞠つきや
踊り出す
ほんにお猿は
道化もの

赤いべべ着て
傘さして
おしゃれ猿さん
鞠つけば
お山の月が
笑うだろ

（大正八年九月作曲）

※音声ガイド設置

- 第4号曲碑
- 昭和57年4月
- 赤野自転車道休憩所



30歳頃の龍太郎

雨（あめ）

作詞　北原白秋
作曲　弘田龍太郎

雨がふります　雨がふる
遊びにゆきたし　傘はなし
紅緒の木履も緒が切れた

雨がふります　雨がふる
いやでもお家で遊びましょう
千代紙折りましょう　たたみましょう

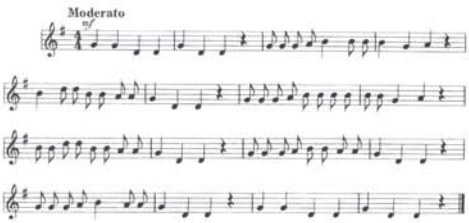
雨がふります　雨がふる
けんけん小雉子が今啼いた
小雉子も寒かろ　寂しかろ

雨がふります　雨がふる
お人形寝かせどまだ止まぬ
お線香花火もみな焚いた

雨がふります　雨がふる
昼もふるふる　夜もふる
雨がふります　雨がふる

（大正七年八月五日作曲）

- 第5号曲碑
- 昭和58年8月
- 土居橋



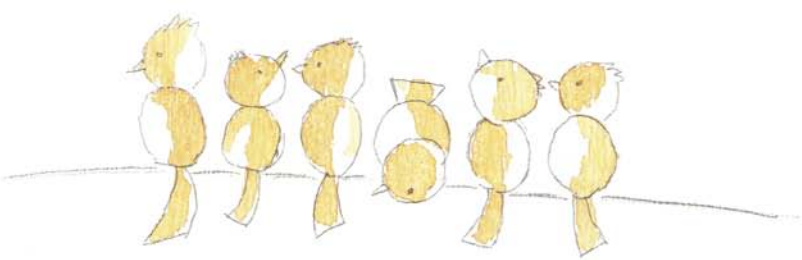
30歳頃の龍太郎
舞踊家若柳吉三郎に
作曲した舞踊曲を弾く

雀の学校

作詞 清水かつら
作曲 弘田龍太郎

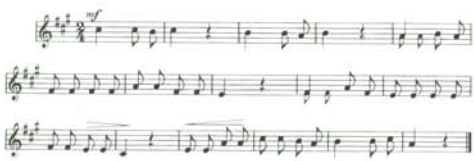
チイチイ パッパ
チイパッパ
雀の学校の
先生は
鞭をふりふり
チイパッパ
生徒の雀は
輪になって
お口をそろえて
チイパッパ
まだまだいけない
チイパッパ
も一度いっしょに
チイパッパ
チイチイ パッパ
チイパッパ

（大正十年十二月七日作曲）



※音声ガイド設置

- 第6号曲碑
- 昭和61年3月
- 四国の道休憩所（岩崎弥太郎生家前）



37歳頃の龍太郎
子どもたちと、モダンダンスの発表会にて

春よ来い

作詞　相馬御風
作曲　弘田龍太郎

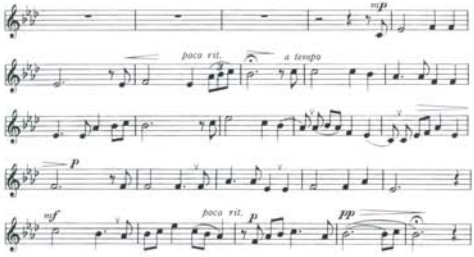
春よ来い　はやく来い
あるきはじめた
みいちゃんが
赤い鼻緒の
じょじょはいて
おんもへ出たいと
待っている

春よ来い　はやく来い
おうちのまえの
桃の木の
蕾もみんな
ふくらんで
はよ咲きたいと
待っている

（大正十二年一月二十日作曲）

※音声ガイド設置

- 第7号曲碑
- 昭和63年5月
- 土居公民館



38歳頃の龍太郎
母と自宅前にて

叱られて

作詞　清水かつら
作曲　弘田龍太郎

叱られて　しかられて
あの子は町まで　お使いに
この子は坊やを　ねんねしな
夕べさみしい　村はずれ
コンときつねが　なきゃせぬか

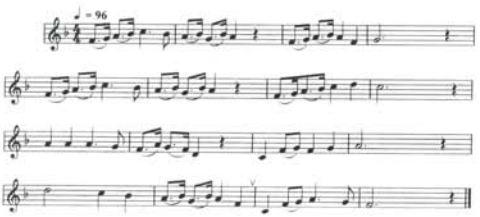
叱られて　しかられて
口には出さねど　眼になみだ
二人のお里は　あの山を
越えてあなたの　花の村
ほんに花見は　いつのこと

（大正九年四月作曲）

●第8号曲碑

●平成2年10月

●溝ノ辺公園



38歳頃の龍太郎
ドイツ留学帰途の「箱根丸」の船中にて

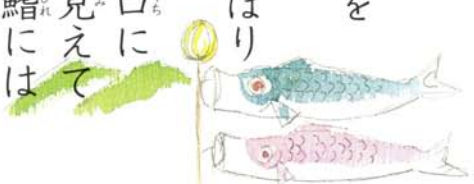
鯉のぼり

作詞　不詳
作曲　弘田龍太郎

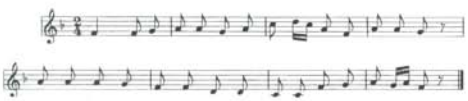
甍の波と　雲の波
重なる波の　中空を
橘かおる　朝風に
高く泳ぐや　鯉のぼり

開ける広き　其の口に
舟をも呑まん　様見えて
ゆたかに振う　尾鰭には
物に動ぜぬ　姿あり

百瀬の滝を　登りなば
忽ち竜に　なりぬべき
わが身に似よや　男子と
空に躍るや　鯉のぼり



- 第9号曲碑
- 平成12年10月
- 江ノ川上公園



42歳頃の龍太郎
家族と自宅前にて

金魚の昼寝

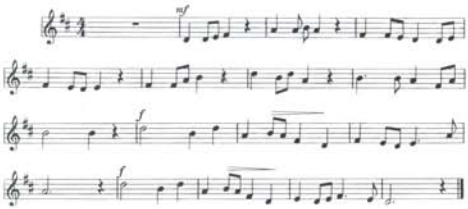
作詞　鹿島鳴秋
作曲　弘田龍太郎

赤いべべ着た
可愛い金魚
お眼をさませば
御馳走するぞ

赤い金魚は
あぶくをひとつ
昼寝うとうと
夢からさめた

（大正八年七月作曲）

- 第10号曲碑
- 平成17年10月
- 安芸駅前広場



自身で指揮をする龍太郎
帝劇「西浦の神」

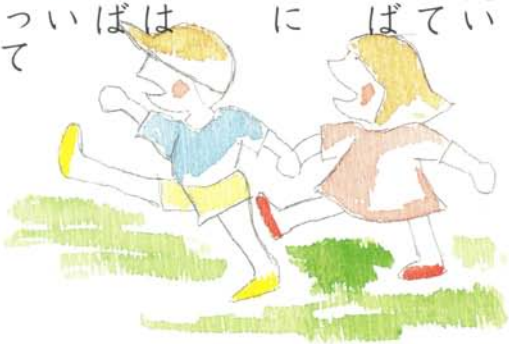
靴が鳴る

作詞　清水かつら
作曲　弘田龍太郎

お手つないで
野道を行けば
みんな可愛い
小鳥になって
唄をうたえば
靴が鳴る
晴れたみ空に
靴が鳴る

花をつんでは
お頭にさせば
みんな可愛い
うさぎになって
はねて踊れば
靴が鳴る
晴れたみ空に
靴が鳴る

（大正八年九月十九日作曲）



弘田龍太郎 略年譜

HISTORY OF RYUTAROU HIROTA

元号(西暦)年月日	年齢	事　項
明治25(1892)年 6月30日		高知県安芸郡土居村(現安芸市土居)に生まれる
31(1898)年	6	父 弘田正郎の千葉県立師範学校校長就任により同附属小学校へ入学
35(1902)年 11月	10	父 正郎の三重県立第一中学校校長(現津高等学校)転任により津市へ転居
38(1905)年 4月	13	三重県立第一中学校に入学。在学中より音楽的才能を認められる
43(1910)年 3月	18	同校を卒業。東京音楽学校(現東京芸術大学)に入学。在学中すでに歌曲「昼」を発表
大正 2(1913)年	21	「いらかの波と雲の波」の出だしで有名な「鯉のぼり」を作曲
3(1914)年 3月	22	東京音楽学校本科器楽部ピアノ科を卒業。研究科に進む
11月		詩人 高安月郊の娘で同級生の高安ゆり子と結婚
5(1916)年 3月	24	同校研究科器楽部卒業
4月		同校授業補助となり、さらに文部省邦楽調査委員を委嘱される
6(1917)年	25	宮城道雄を中心とした新日本音楽運動に参加する。琴、三味線を主体としてきた当時の舞踊界に洋風の伴奏をとりいれはじめる
8(1919)年 3月	27	東京音楽学校研究科作曲部卒業
4月		同校講師となる。この頃より児童文学雑誌「赤い鳥」の童話・童謡の文学的運動に作曲家として協力
9月		「靴が鳴る」を作曲
9(1920)年 1月	28	「浜千鳥」を作曲
3月		東京音楽学校助教授となる。この頃「雨」を作曲
4月		「叱られて」を作曲
10(1921)年 12月	29	「雀の学校」を作曲
12(1923)年 1月	31	「春よ来い」を作曲
昭和 3(1928)年 2月	36	文部省在外研究員として家族とともにドイツに留学。ピアノ・作曲を研究
4(1929)年 6月	37	ドイツより家族とともに帰国
7月		東京音楽学校教授となる
9月		作曲活動専念のため同校教授を辞任
14(1939)年	47	日本大学江古田校舎の芸術科において教鞭をとる
		作曲活動のかたわらNHKラジオの子供番組の指導や児童合唱団の指揮、指導に当たる
21(1946)年 12月	54	日本音楽著作権協会監事に就任
22(1947)年 3月	55	ゆかり文化幼稚園園長に就任。この後幼児教育にたずさわり、放送講習会、リズム遊びの指導にあたる
25(1950)年 3月	58	名古屋女学院短期大学音楽主任、東京宝仙短期大学教授音楽主任に就任
27(1952)年 11月17日	60	病のため東京本郷の自宅で永眠。墓所は、東京都台東区谷中の臨済宗普門山全生庵

龍太郎愛用のオルガン

童謡のふる里

安芸市ごあんない

Ⓐ内原野公園
Ⓑ岩崎弥太郎生家
Ⓒ書道美術館・歴史民俗資料館
Ⓓ土居廓中
Ⓔ野良時計
Ⓕ安芸市営球場
Ⓖカリヨン時計

❶曲碑「浜千鳥」
❷曲碑「咲いた桜に」
❸曲碑「お山のお猿」
❹曲碑「雨」
❺曲碑「雀の学校」
❻曲碑「春よ来い」
❼曲碑「叱られて」
❽曲碑「鯉のぼり」
❾曲碑「金魚の昼寝」
❿曲碑「靴が鳴る」

←至高知市
ごめん・なはり線
和食駅
赤野駅
穴内駅
球場前駅
安芸駅
伊尾木駅
下山駅
至室戸市↓
安芸川
伊尾木川
土佐湾
55

曲碑散策コース例

安芸駅、曲碑❿「靴が鳴る」 1.6㎞→ 野良時計、曲碑❽「鯉のぼり」
0.2㎞→ 曲碑❼「叱られて」 0.1㎞→ 武家屋敷 0.1㎞→ 書道美術館、歴史民俗資料館 ❶
2㎞→ 内原野公園、曲碑❷「咲いた桜に」
2.5㎞→ 岩崎弥太郎生家、曲碑❻「春よ来い」 2㎞→ 浄貞寺、曲碑❸「お山のお猿」
1㎞→ 岩崎弥太郎銅像、曲碑❾「金魚の昼寝」 0.7㎞→ 安芸駅

Ⓖカリヨン時計

複数の鐘で童謡などの音楽を奏でるカリヨンと、からくり時計を組み合わせたモニュメント。カリヨン時計は、安芸市の木であるヒノキをかたどり、からくり人形を収める黄色い球体は安芸市特産のゆずをイメージしてデザインされています。

野良時計